

## 令和2年度 ときわ会 活動の重点と重点達成の方策

これまで、ときわ会は、本旨にある「不朽の理想実現のために」歴史を省み、先達に学ぶとともに、常に未来に目を向け、活動を進めてきた。ときわ会創設140周年では、ときわ未来図を掲げ、「150周年に向かって教育改革の大きな胎動とうねりを起こしていく」と謳った。そして、地域教育プログラムなど新たな教育の実践を進め、大きな成果を上げてきた。

しかしながら、この間、学校現場は、多様な子どもへの対応や加速していくICT化、地域や家庭の教育力の低下、教育格差など多くの課題に直面している。また、学習指導要領が小学校で全面实施となり、中学校でも1年を切った。各学校においては、課題の解決に努力し、学習指導要領の確実な実施に向けて全力を挙げて取り組むことが求められている。加えて、教員の働き方改革が求められている中で教職の困難さに多くの焦点が当てられ、子どもの未来を拓く仕事としての教職の誇りと魅力とが語られることが少なくなってきた。

そのような中においてもときわ会員は、目の前の子どもに正対し、子どもの未来を輝くものとするために全力で実践を重ね、子どもの成長を喜ぶという教職の原点に立って職責を果たしている。この営みにおいては、「改善」と「創造」が実践の発展を支え、そのことが教職の誇りと魅力とを実感させているのである。このような時だからこそ、ときわ会は、会員一人一人の理想の教育実現に向けた挑戦を後押ししなければならない。そして、学校を一層輝くものとしていかなければならない。

今後は、150周年の先にある教育を考える時である。150周年のその先にある教育を展望することとは、激しく変わりゆく予測困難な時代に対応した教育はどうあるべきかを考えることである。未来の教育を創る試みは、その志の高い者にしかできない挑戦であり、志ある者の集いであるときわ会の使命とも言える。

3年後に創設150周年を迎えるときわ会は、会員一人一人の実践の創造性をさらに高め、新しい時代にふさわしい教育、学校、そしてときわ会の在り方を求めていく必要がある。そこで今年度は、**新しい時代の教育を創るときわ会**を基本方針として、全会員が一丸となり、着実な実践を押し進めていく。

### 【研修の充実】

教師が、社会から尊敬・信頼されるのは、子どもの資質・能力を適切に育成する実践的指導力を有するからである。教師は、自らの実践において絶えざる刷新を進め、学び続ける存在でなければならない。

そのために、ときわ会では、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学習指導要領で求められている資質・能力を育成する授業へと改革するための研修を推進する。このことは、これまでもこれからも変わらずときわ会の研修の中核を成すものである。その上で、目の前の子どもに未来を切り拓くための力を育むべく創意工夫を凝らした実践を推奨し、実践の事実からこれからの授業の在り方を探る研修を推進する。ときわ会員の一人一人が自身の授業観を確立することこそ、新潟県・新潟市の教育の振興に寄与していく礎となる。

加えて、これまでもときわ会として大切にしてきた地域との連携を今後も推進しつつ、「社会に開かれた教育課程」の編成とそのカリキュラム・マネジメントに関する研修を進める。そこでは、外国語科やプログラミング教育など新しい教育内容を取り入れ、各校の特色や実態を踏まえ、さ

らに教職員の働き方との両立に取り組む等、新しい時代の教育課程を創り出し、実践を重ねていくことを目指していく。

さらには、特別支援教育の一層の充実など、今求められている課題に対しても、ときわ会は向き合っていかなければならない。

以上のことから、会員一人一人の実践的指導力の向上を目指して「**授業改革をはじめとする実践的指導力を高め、新しい時代の教育を創り出す研修の充実**」を活動の重点として位置付ける。

#### 【会員や組織への支援】

ときわ会員は、自らの経験や関心により、どのような指導力をどのように向上させ、それをどのように発揮したいかなど、自らの将来を思い描き、日々精進している。支部や年度などの組織では、所属している会員の思いを把握し、寄り添い、会員一人一人に研修の機会を提供し、挑戦を推奨するとともに、会員同士の結び付きの強化を目指している。それらにより、計画的な人材育成が促され、会員の指導力の向上に相乗効果が生まれる。

次代を担う会員を育てるため、若手会員への支援や、様々な職種・校種等の多様な会員への支援など、会員一人一人への支援が欠かせない。本部や組織委員会が中心となり、計画的に進めていく必要がある。

今年度は、「**一人一人の会員や組織への支援を進めることによる計画的な人材育成**」を重点として運営を進め、機能の強化を図っていく。

#### 【ネットワーク拡充】

会員同士の交流やコミュニケーションが充実することにより、支部や年度のつながりが深まり、それにより組織機能が向上する。さらに、支部を超えた交流や年度を超えた交流など、さらなる活性化を進めることも求められている。

その上で、ときわ会への理解と信頼をさらに高めていくためには、様々な団体やその関係者とのネットワークを広げていくことが必要となる。これまででもときわ会は、公益財団法人新潟教育会などの友好関係を築いてきた団体との連携を重視してきた。また、新潟大学をはじめとする県内外の諸大学や各行政機関などとも交流を行ってきた。これらの団体やその関係者との連携を充実させるとともに、新たな交流や連携にも取り組んでいく。このことは、会員の視野を広げ、使命の一層の自覚や教師としての指導力の向上を促す。

今年度は、各組織において「**ネットワークの拡充と情報発信**」を重点として取組を進め、組織を活性化していく。

#### 【ときわ会の未来を探る取組】

ときわ会員は、「つねに厳しくみずから鍛え、相互に錬磨しあう」ことを旨として日々研修に取り組んでいる。そして、ときわ会は、その時々高めなければならない指導力に対しても柔軟に対応し、研修を改善してきた。今後も、時代に求められる指導力の向上を持続させるためにも、中・長期的な視点から、研修や組織の在り方の検討を進める。その際、本部の指導の下、ときわ未来図推進委員会を中心として会員のニーズを把握し、検討に資するよう進める。

また、大きな成果を上げてきた全県教科等研究部や12期続いた教科等研究セミナー、支部の研修組織等が、これまで以上に会員の実践研究を促し、人材の育成に寄与できるよう、その組織や活動を更新したり見直したりしていく。

そこで、今年度は、未来のときわ会に向けた取組として「**150周年の先を見据えた、ときわ会の取組と研修・組織の在り方の探求**」を活動の重点として位置付ける。

以上から、四つの重点及び達成の方策を設定し、ときわ会全体を挙げて取り組んでいく。

## I 活動の重点

**重点1 授業改革をはじめとする実践的指導力を高め、新しい時代の教育を創り出す  
研修の充実**

**重点2 一人一人の会員や組織への支援を進めることによる計画的な人材育成**

**重点3 ネットワークの拡充と情報発信**

**重点4 150周年の先を見据えた、ときわ会の取組と研修・組織の在り方の探求**

## II 活動の重点達成の方策

**重点1 授業改革をはじめとする実践的指導力を高め、新しい時代の教育を創り出す  
研修の充実**

児童生徒の資質・能力を育成する授業の研修や教育課程の編成と実施を推進する研修を充実させるとともに、これからの教育を創造・実践する研修を推進する。

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」を実現し、資質・能力を育成するための授業力を高める研修を推進する。 (「研修委員会」「支部」「年度」)
- (2) これからの児童生徒に必要とされる資質・能力を明らかにし、育成することを目指した実践を推奨し、関連する研修を推進する。(「研修委員会」「支部」「年度」)
- (3) 地域社会との連携を通して「社会に開かれた教育課程」の編成及びカリキュラム・マネジメントの研修を推進する。 (「研修委員会」「支部」「年度」)
- (4) すべての学校が特別支援教育の充実を目指し、適切な教育課程を編成し、一人一人のニーズに応じた合理的配慮を一層提供できるよう、全会員を対象とした特別支援教育研修会を実施する。 (「特別支援教育推進委員会」)
- (5) 教育活動が充実し、魅力ある働き方ができる学校づくりを進めていくための研修を実施する。 (「研修委員会」「支部」「年度」)

**重点2 一人一人の会員や組織への支援を進めることによる計画的な人材育成**

一人一人の会員が自らを輝かせるためのライフステージを設計し、取り組めるよう支援するとともに、各年層・職種等または必要な組織への支援を行う。また、会員の活躍の場を整え、人材を計画的に育成する。

- (1) 支部長及び校長会員が、支部内の会員とじっくり話し合い、会員一人一人のライフステージの設計と取組を把握し、会員の自己実現を支援する。 (「支部」「年度」)
- (2) 教育研究発表会、教科等研究セミナー、ときわスーパーティーチャー、ときわ教育賞・ときわ教育奨励賞、各種論文の執筆支援等の活動を通して、実践的指導力を有した各分野の中核となる人材を計画的に育成するとともに、効果的な活躍の場を整える。 (「研修委員会」「全県教科部」「支部」「年度」)
- (3) 各組織へのきめ細かな支援・相談活動を実施するとともに、各分野における人材を把握する。 (「組織委員会」「交流委員会」「支部」「年度」)

- (4) 若手会員や多様な職種・校種の会員への支援の充実を図り、相互の連携と組織的な活動を促進する。  
(「本部」「支部」「組織委員会」)
- (5) 本部，連合，支部，年度等による研修の重複の見直しを進めるとともに，研修会や会議等の会合の内容や方法を検討し，会員一人一人が参加しやすい活動や運営へと改善を図る。  
(「全組織」)

### 重点3 ネットワークの拡充と情報発信

ときわ会内外のネットワークを拡充させるとともに，外部の関係機関との連携や交流を強化し，信頼を深める。

- (1) 会員外の参加を募ったり，教育関係者以外の講師を招聘したりするなど外部との交流や親睦を促進する。  
(「本部」「研修委員会」「組織委員会」「ときわ未来図推進委員会」「支部」「年度」)
- (2) 上・中・下越，新潟市それぞれの支部・連合間の情報連携を密にするとともに，新潟県と新潟市の支部間の連携・交流を促進し，一枚岩のときわ会の一員としての意識と一体感をより一層醸成する。  
(「組織委員会」「支部」)
- (3) ときわ会公式ホームページを活用し，会員相互の教育実践の積極的な情報交流を推進する。また，「エデュコにいがた」「ときわ未来図推進リーフレット」等を積極的に教育関係諸機関や会員外に配付し，ときわ会への理解を進める。  
(「広報委員会」)
- (4) 地域の実情に合わせ，地域の行政機関や各種団体等との交流を進める。(「支部」)
- (5) 新潟大学をはじめとする県内外の諸大学，公益財団法人新潟教育会等の教育関係諸機関・団体と連携した研修活動や事業を積極的に推進する。  
(「本部」「研修委員会」)

### 重点4 150周年の先を見据えた，ときわ会の取組と研修・組織の在り方の探求

ときわ未来図の理念を受け継ぎ，発展させるとともに時代の要請や会員のニーズに基づき，中・長期的視点から今後のときわ会の取組と研修・組織の在り方を探る。

- (1) 支部や年度など様々な組織からの情報を集め，会員のニーズを把握する。  
(「本部」「ときわ未来図推進委員会」「支部」「年度」)
- (2) 中・長期的視点に立って，今後のときわ会の取組や研修・組織の在り方について検討を進める。  
(「本部」「ときわ未来図推進委員会」)
- (3) 全県教科等研究部や支部の研修組織，サークル等が，会員への支援活動や人材育成を計画的に推進することができる組織や活動の在り方を検討する。  
(「本部」「研修委員会」「全県教科部」「サークル」「支部」)